



【星城大学1号館1301教室にて】

短歌の作品を募集した結果、学生や教職員、また市内中学生を含む市民からも数多くの作品が寄せられ、公開審査も兼ねてシンポジウムが開催されました。中学2年生の作品は、ふと空を見上げた光景から世界へと思いをはせたとして、高い評価を得ていました。

星城大学

SEIJOH短歌コンクール'08 みそひと 三十一文字に燃え上がる我等が青春!

「大学は、国内外からの学生・教職員・地域住民の共有による“知遊空間”である」との認識に立ち、星城大学の大学祭「星祭」の一環として「若者と短歌」公開シンポジウムが武田洋平教授により企画されました。東海市教育委員会の後援を得て、広く「青春」「老春」など人生を詠み込んだもの、若者への応援歌をテーマに

一部作品を紹介

- 秋あかね 羽音たてずに 飛んでいる イラクの空を ふと思いたり (中学2年生)
- 許嫁(いいなづけ) 清しき響きを 胸に秘め 十五の夏に 焼岳登る (一般市民)
- 手が裂ける 熱さであっても 掴みたい 放さないでね まだ若いから (星城大学留学生)
- 堀川に 映る町の灯 さやけくも ときに乱るる 春の夜の風 (星城大学経営学部教授)
- うらはらな 優しさと厳しさとの間を 流れて育つ 若魚(わか)かな (星城大学リハビリテーション学部教授)

星城高等学校

「母校を語る」ZIP-FMミュージック・ナビゲーター 南城 大輔さん(第30回生)

第3回学校説明会にて、軽快なテンポでプロのトークが披露されました。「星城高等学校は、自慢できる高校生活を送るにはお勧めの学校だと自信をもって言えます。高校生活を語る上で、重要な要素は、公立学校にはない建学の精神に基づいた方向性のある教育方針があり、統一性のある教育がなされていることです。部活動では全国で活躍する愛知県有数の学校であり、卒業生として母校の活躍は、非常にうれしく思います。他にも、姉妹校への海外語学留学など、国際色豊かな学校であることも魅力の一つ」と語られ、「高校時代は、いろいろな考え方をもちたたくさんの交流をもち、時にはぶつかりあいながら自分を創っていく人間形成の時期であり、社会性や価値観を学ぶ大事な時期だと思います。僕は『星城高校出身です』と堂々と言える高校時代だったと思います」と高校生活の重要性を熱く訴えられました。



【学校説明会にて】



【毎年恒例の大掃除】

く終わったけど、中庭は落ち葉や草などがいっぱいありましたが、掃除をしたらきれいになったのでよかったです。

掃除をすると、した人も来た人も心がさわやかな感じになるので、家の掃除などをこれからも進んでやりたいです。

【生徒手記 1年B組 堀尾 祐貴】

夏に体験した内観研修のお礼として、掃除をしました。研修の時はあまりしっかりと掃除ができなかったので、今回はしっかりとやるうと思って、落ち葉を取ったり、草を抜いたりしていました。僕はあまり掃除は好きではないけれど、きちんと掃除することで、心の中もすっきりし、また専光坊もきれいになったのでよかったです。すごくお世話になった専光坊にお礼をすることができたので、うれしいです。

星城中学校 専光坊「大掃除奉仕活動」

夏休みに体験した「内観研修」のお礼清掃が専光坊にて行われました。学校長より「掃除は『人間』のあり方そのものです」等、掃除の意義と目的を話され、1年生全員が一生懸命に取り組みました。

【生徒手記 1年A組 石山 隆之】

7月に内観研修でお世話になった専光坊で大掃除奉仕活動を行ってきました。僕は、本堂と中庭の掃除をしました。本堂は、結構きれいだったので早



【桶狭間出陣太鼓】

星の城幼稚園 音楽会『みんなが主役』

子どもたちの楽しみにしていた音楽会は、年長組による「桶狭間出陣太鼓」の迫力あるオープニングで始まりました。

お友達や保護者の皆さんに見てもら嬉しさや、発表する喜び、また緊張感や満足感などを味わいたい。そんな思いを抱きながら、子どもたちはクラスの皆と一緒に歌を歌い、リズムにあわせて楽器を演奏したり、楽しく練習をしてきました。年長組の手話を交えた歌と楽器の演奏から、つぼみ組（満3歳児）のかわいらしい歌まで、それぞれの学年の持ち味が活かされていました。子どもたちの思いやがんばった成果を観客の方々に十分に伝えることができ、素晴らしい音楽会となりました。

星城大学リハビリテーション学院 星誕会『卒後研修会』

第2回星誕会（同窓会）「卒後研修会」が平成20年12月7日（日）に東別院会館にて開催されました。

今年の参加者は去年の参加者より多く、実習施設からは60名、会員67名、準会員40名で全体として167名にものぼり、盛大に行われました。対象は経験年数が1～3年目程度と設定され「姿勢と動作の見かた～ビデオ症例検討～」というテーマで、実技も多く取り入れられ、十分に臨床で応用できる内容とされました。参加者は職場での治療における「鍵」を発見でき、更なる飛躍が期待されます。



【実技風景】

新春に学ぶ

企画室 中等教育研究部

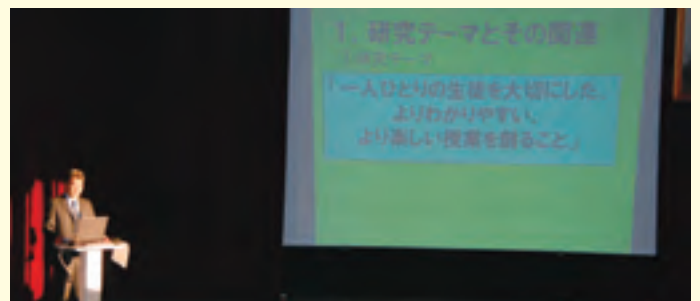


春木 利久 先生

平成20年4月に発足した中等教育研究部の発表会が、新年1月6日に行われました。春木先生は『一年間の歩み』と題して、数学の授業実践はもとより、県外視察等から学んだことを、植松先生は『授業研究・分析』というテーマで、国語の授業研究・分析を通して学んだことを発表されました。参加者の多くから賞賛と慰労の声が寄せられました。

また、アラニ部長からは、「各国それぞれの教育文化にあわせて授業研究が行われている。日本の授業研究は世界の多くの教員より注目されている」と日本の授業研究の質の高さについて、話がありました。

締めくくりとして、深谷法人本部顧問から、教員生活での具体例を挙げ「決して同じ授業は二つとできない。毎時間を大切にして、星城中・高校生を育ててほしい。今後は、春木・植松先生と先生方が手を取りあって、より素晴らしい授業実践に取り組んでください」と語られました。



植松 康張 先生